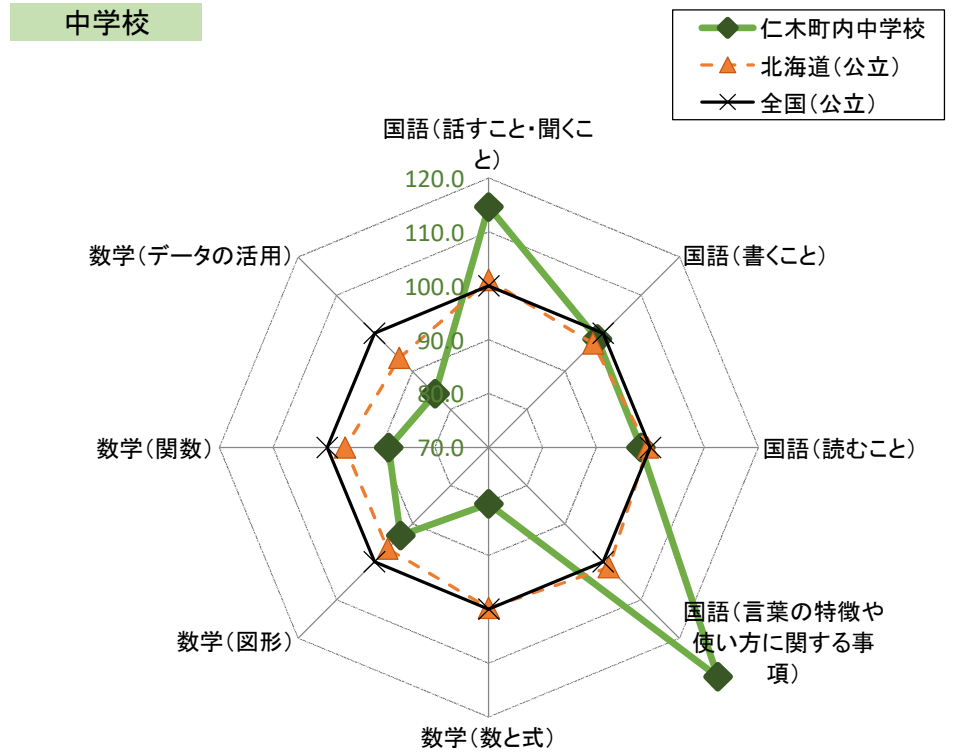
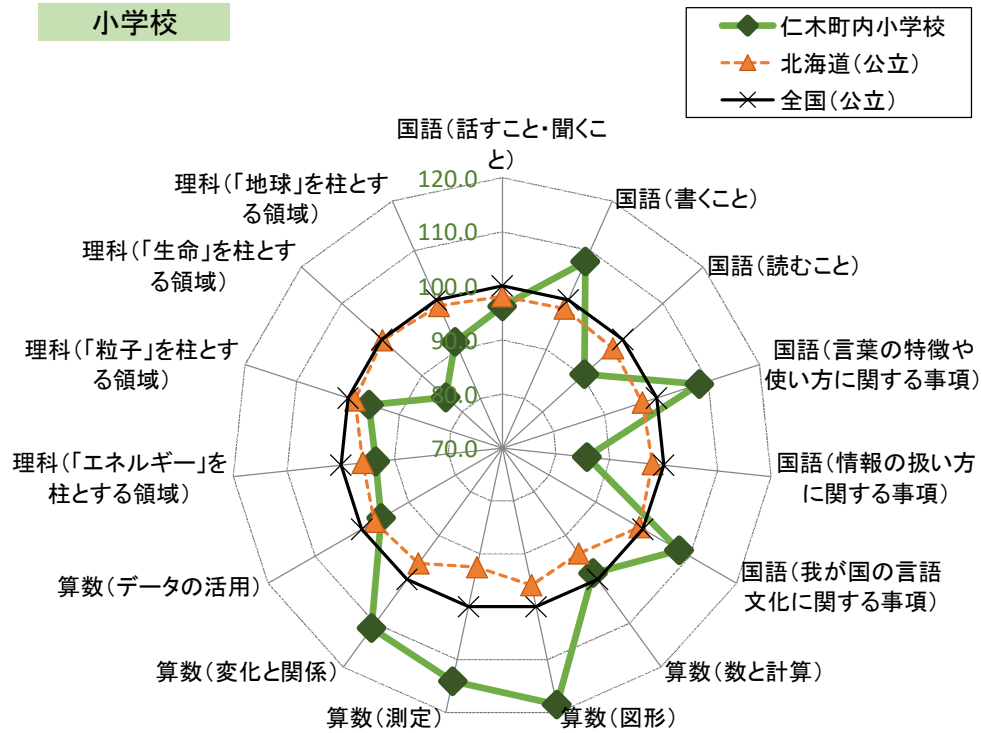


令和7年度全国学力・学習状況調査 仁木町内の状況及び今後の改善方策

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません



小学校数:2校、児童数:24人 中学校数:2校、生徒数:25人

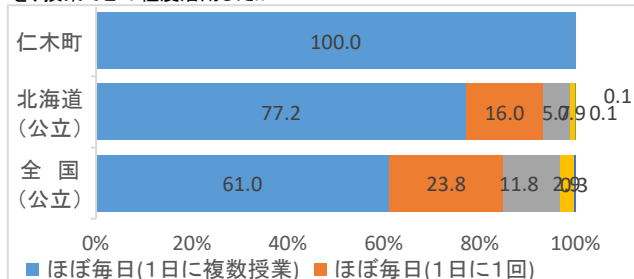
【平均正答率・平均IRTスコア】				※中学校理科は平均IRTスコア		
	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
仁木町	66.4	61.3	52.4	58.1	38.8	488.2
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

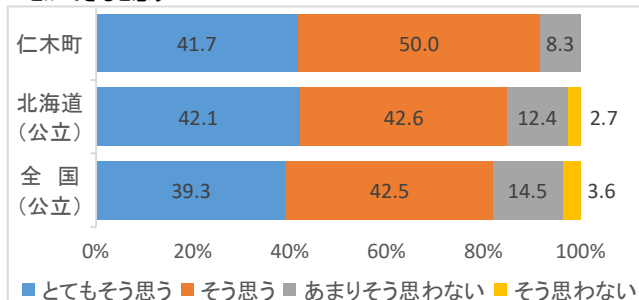
前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか



小学校

<児童質問>

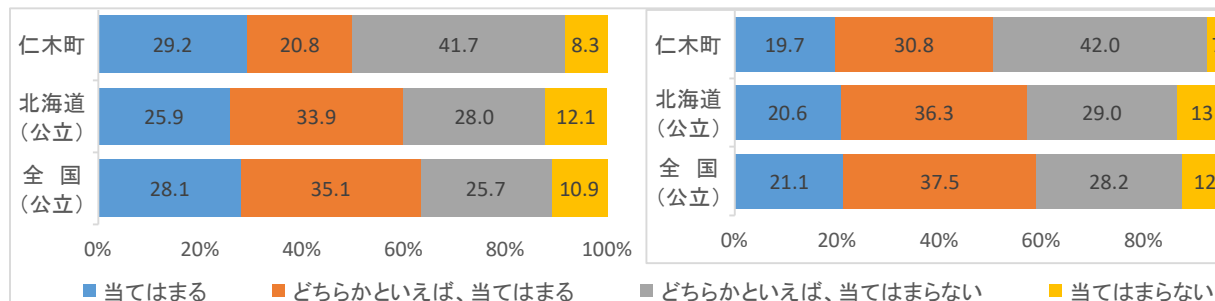
PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができと思う



小学校

<児童質問>

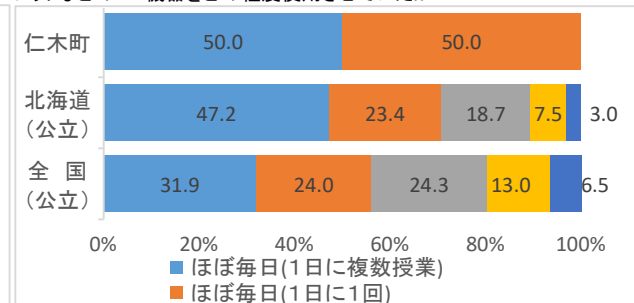
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できている



中学校

<学校質問>

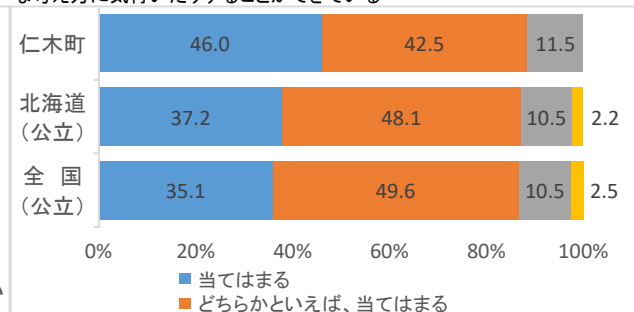
生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていたか



中学校

<生徒質問>

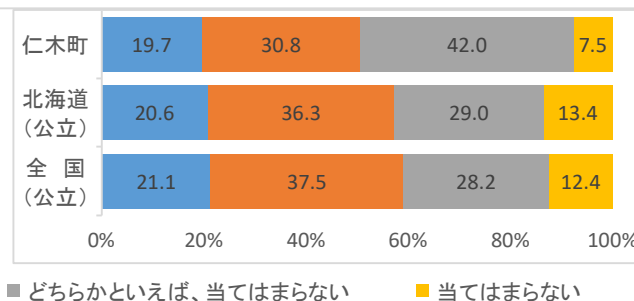
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる



中学校

<生徒質問>

数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている



○ 調査結果の分析

・小学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日学習に使用したことにより、調べたことや考えたことを文章として作成することができると回答した児童の割合が全国平均を上回ったと考えられる。また、ICT機器を活用することによって、楽しみながら学習を進めたり、画像や動画等を活用することで学習内容がよく分かると回答する児童の割合が全国及び全道平均を上回ったと考えられる。

・中学校において、生徒が自分の考えを交流する場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

・小学校理科及び中学校数学の平均正答率は、小学校理科においては、学習したことが生活と結びついて考えられていない傾向にあり、中学校数学においては、学習方法として、考えを説明する活動や様々な方法で解き方を考える数学的な思考活動が全国及び全道平均を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

○ 今後の改善方策

- ・PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)活動やプレゼンテーションを作成し、考えを表現する活動を充実させる取組の推進
- ・学習の理解度等に応じた指導方法(個に応じた指導と児童生徒自らの学習調整力向上)の工夫改善を図ることによる、児童生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する取組の推進
- ・学習で獲得した知識や技能、思考力等が普段の生活と結びつく指導の工夫や、児童生徒自らが自らの考えを深めたり、説明や表現する資質・能力を育成する取組の推進